

研究結果報告書

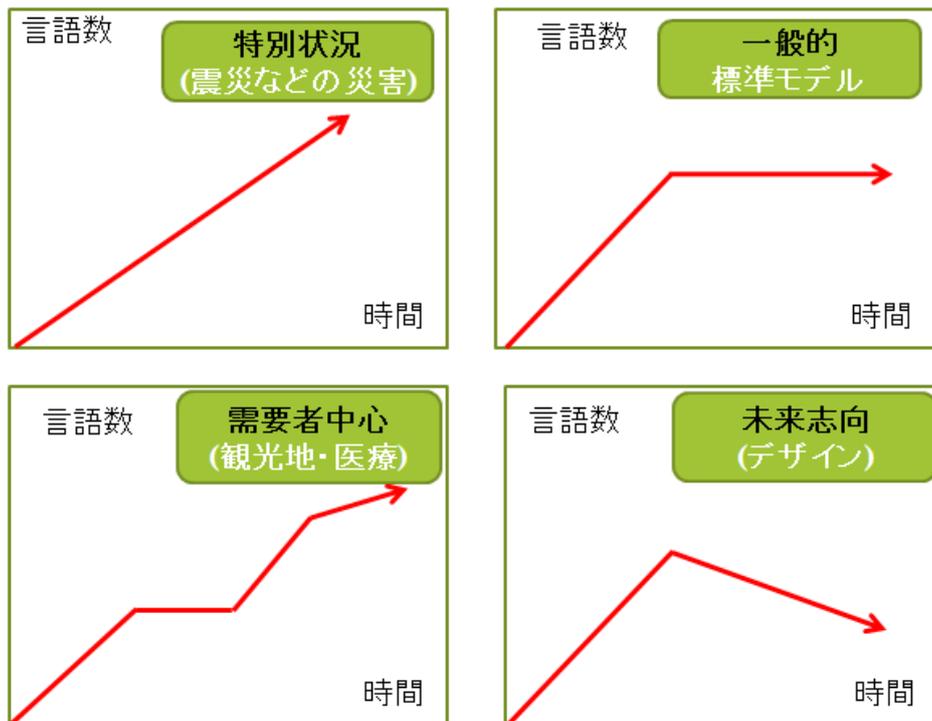
研究結果

本研究では、日韓で見られる多言語化に注目し、実際に集めた資料（写真・動画・音声資料など）をもとに、両国の多言語景観の異同について考察した。調査は実態調査を中心に行ったが、多言語の意識を把握するため、アンケート調査も並行して行った。その結果、以下のようにまとめることができた。

- ① 単一言語表記から多言語表記に変化
- ② 誤用が多い表現が存在
- ③ 言語表記が正しく自然な表現に修正
- ④ 言語表記（特に英語）が他の言語に比べて正確
- ⑤ 今後の多言語化モデルが予測可能

詳しく説明すると、多くの言語表記が初期段階の単一言語表記（母語）から徐々に多言語表記（英語・中国語・韓国語（日本語））に変わっていくことが明らかになった。韓国では日本語の促音表記が誤植（字体の大きさ）として多く登場したのも事実。一方、日本では韓国語の助詞「の」が不自然な場合が多かったが、言語表記が徐々に不自然な表記から自然かつ正しい表現に改められていることが明らかになった。特に英語表記が他の言語に比べて正確な表現になっていることが判ってきた。

今回の調査により、両国の多言語化は年々進んでいることが明らかになり、こうした結果をもとに今後の多言語化のパターンを場面ごとに予測することも可能であることが判ってきた。



〈図〉 今後予想される多言語景観のモデル

第1のパターンは、時間が経過するにつれて言語の数が増えるパターンで、緊急時に適応可能である。3.11大震災後、災害放送やニュースが約28カ国語で流されたことがあった。

第2のパターンは、一般的な多言語景観モデルとして普遍的に定着する可能性が高い。今回の調査でも自国語・英語・中国語・日本語（韓国語）の組み合わせが多く見られた。

第3のパターンは、観光地で客の需要に合わせて言語が増えるパターンである。たとえば、ソウルの明洞（ミョンドン）の場合、最初、日本語のみで表記が出されたところが多かったが、中国人観光客が増加するにつれ、中国語が増えつつある。今後、東南アジアの観光客が増加するにつれ、言語の数も増えるはずである。

第4のパターンは、最近登場するパターンで、しゃれた建物や新築の建物の場合、英語、またはサイン（絵）で表記するケースが増えていることが明らかになってきた。

調査で得られた結果は、機会を見つけて随時発表しており、また論文を掲載している。更には『日本と韓国の多言語景観を考える（仮題）』というタイトルで2013年中の出版を計画している。本研究遂行の機会を与えてくれた住友財団には感謝の意を表したい。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 후쿠오카시 지하철 언어경관 연구(福岡市地下鉄の言語景観の研究)
梁敏鎬・2012.12.15・韓国日語日文学会(韓国・崇実大学)
2. 한국과 일본의 언어경관연구의 현황(韓国と日本の言語景観研究の現況)
梁敏鎬・2012.10.27・社会言語学会(韓国・中央大学)
3. 日本と韓国の多言語景観について
梁敏鎬・2011.6.21・福岡歯科大学学際領域講演会(日本・福岡歯科大学)
4. 日本の言語景観に見る多言語表記のパターン—道路標識を中心に—
梁敏鎬・2011.3.19・韓国日本語学会(韓国・建国大学)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

日本の道路標識のパターンから見る言語景観研究
梁敏鎬・2012.12.31(予定)・日本語学の研究35集

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

日本と韓国の多言語景観を考える(仮題)

2013年12月予定(出版社:知識と教養)